sachi　vol.2 May. 1. 2005　　定価 200円

春夏秋冬　季刊号・増刊号と合わせて年六回刊行します。
購読費／年間1000円（税込み）
※お申し込みはＨＰからどうぞ、メールも受付けております。

編集委員／赤津 陽子　今田 佳子　金谷 奈々
写　　真／牧野 匡洋

株式会社 ハッピー
tel 0120-88-6868
fax 0120-88-3937
〒611-0041　京都府宇治市槙島町目川70番地の1
URL…http://www.kyoto-happy.co.jp
E-mail…happy@kyoto-happy.co.jp

Happy ケア・メンテ

夏
2005

sachi

vol.2　特集／現代（いま）に伝える平安の京和傘

INDEX

02 ＿ INDEX

03 ＿ はじめに

04 ＿ 職人の技（わざ） 現代に伝える平安の京和傘・日吉屋

12 ＿ すきまにきょうと

14 ＿ 着だおれ京都から発信

16 ＿ きもの燦々（さんさん）

18 ＿ 信楽（しがらき）に魅せられて

20 ＿ 美味いを回遊（かいゆう）

22 ＿ ハッピーのある街・京都/宇治

23 ＿ ハッピー

春は朧。

今年は、桜の開花が一週間ほど遅れた。
四季に少しずつズレが生じているのか。
そのお陰で観光地は大変な賑わいを見せたようだ。
通年の数十パーセントアップの売上であったとか・・・。
商いからみれば、それも良しとしよう。
とは言うものの地球環境の観点からみれば、
地球の温暖化が進行し世界のアチコチで、
豪雪だの、洪水だの、地震だのと、天変地異が多すぎる。
　私たち地球人に、何か、なす術（すべ）はないのだろうか。
明治時代といわないまでも、昭和のはじめ頃の不便さに
戻ってもよいのではないか、などと考えてしまう。
あまりにも便利すぎる世の中は、地球を壊してしまい
地球に住めなくしてしまうのではないか、と危惧する。
　だったら、いっそのこと、薪でご飯を炊き、ランプで
生活する日を法律で定めれば面白いなどと、
非現実的なことを考えている今日この頃・・・。

さて、幸・Sachiは、

　京都の伝統と文化に取り組み、
格式を重んじる京都の伝統の職人技を紹介する。
昔を伝承していく「技」の人びとを、
ハッピーの視点で表現していく。
ハッピーの職人技と京都の伝統・職人技が
綾糸のように織り重なったとき、
今までに味わうことのなかった心の奥底に響く感動が、
よび醒まされることをお約束する。

今田　佳子

職人の技（わざ）

悠久のときを経て、
職人の技は伝統・文化へと昇華していく

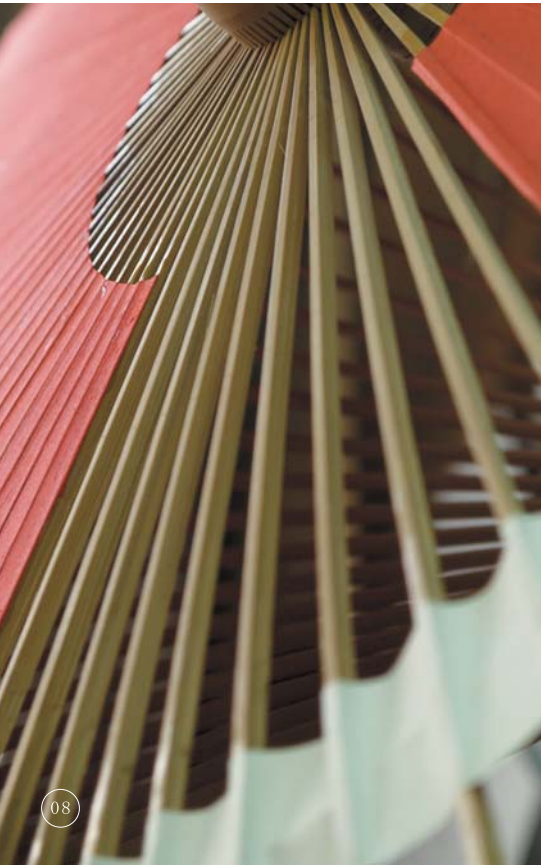
現代（いま）に伝える平安の京和傘・日吉屋

和傘のルーツは中国にあり、平安時代に日本に伝わってきた。日本に伝わったころは、公家や貴族の人々が使う高貴なものだった。ところが、時代が移り変わって、江戸も後期になると、一般の大衆が和傘を使うようになる。その姿は、北斎や広重の版画にも描かれている。時代が明治、大正、昭和と進み、戦後になると洋傘の普及で、和傘製造業は衰退の一途をたどる。しかし京和傘・日吉屋は、京都で一軒だけとなった今も、その伝統と格式を伝えながら、和傘製造にいそしんでいる。

職人の技（わざ）

お寺と傘屋

日吉屋は江戸後期、京都五条の本覚寺門前で傘商を始めた。二代目の時代に、人形寺として有名な宝鏡寺前に工房を移す。土地の狭い京都では、和紙に塗った油を乾かす場所として、お寺の境内がうってつけだったことから、傘の乾燥に宝鏡寺境内を使用させてもらう。そして夕方、寺の門を閉めるのは、いつしか日吉屋の役割りになった。そんな良い関係が今も続いている。



「裏千家からわびさびの傘」を求められて…

和傘の主産地は、良質の竹と和紙がとれる岐阜県だ。京都では、茶道家元の伝統行事などで野点（のだて）傘が使用される。日吉屋は、裏千家から「わびさびの精神にあう傘を」との要請を受け、傘の先端がまっすぐに伸びた「本式野点傘」を考案した。繊細さと優雅さを兼ね備えた「本式野点傘」は、日吉屋だけの技術だ。他にも「段張り」や「羽二重」といった工法もある。そして細部も、紐や金属など京都ならではの伝統工芸品で装飾されている。エリザベス女王が京都を訪れた際、二条城のお茶会で使用された野点傘も、日吉屋の逸品だ。

国賓も使用する日吉屋の和傘

西堀耕太郎氏が五代目としての修行を始めたのは、日吉屋が和傘製造の廃業を考えていた頃だった。「初めて番傘を開いたとき、その渋さに感激しましたね。高校時代、カナダに滞在したことがきっかけで、日本の文化を意識するようになったのですが、和傘を見て、『これだっ』と思ったんです。お茶の家元や国賓が使ってくれているのに、廃業はもったいないだろうと…。日本中、世界中を見渡せば、関心を持ってくれる人は必ずいるはずだと、まずはホームページを作りました。最近の注文の七割がインターネットからです。」

「和傘をさして渋谷を歩きたい」

インターネットで注文を受けるようになって、購買層が確実に増えている。全国で和傘製造業者の数が減少するなか、旅館、料亭、祭など、これまで取引のなかった地方からも問い合わせが増えている。「最近では、和傘で渋谷を歩きたいという若いお客さまもいらっしゃいます。実用的な普段使いはもちろん、お店のディスプレイや縁起物として、いろんな用途にお使いいただいているようです」と日吉屋の五代目は語る。

娘を嫁にだす心境です――

和傘がアメリカに

一本の和傘にかかる技能と労働力を考えると、商品としてでき上がってくる和傘は決して高価とはいえない。日吉屋は今後、工房見学やホームページの整備に力を入れ、国内外の人々により広くアピールしていく。「どの工程でも途中で失敗するとやり直しがきかないので集中力が必要です。和傘づくりには、緻密さと手際の良さの両方が要求されます。和紙のカットは寸分のズレも許されませんし、ゆっくりしていると今度は糊が乾いてしまいます。だから大事な仕事は夜にするようにしてるんです。実際、お客さまにご愛用いただけることが、私にとって最高の喜びです。街中で多く見かけるようになると気分は最高ですね。」夢は大きく広がっている。この日も何本かの和傘がアメリカへの出発を待っていた。

＜取材・文／藤岡 篤弘　写真／牧野 匡洋＞

PROFILE

西堀 耕太郎 〈NISHIBORI KOTARO〉

1974年、和歌山県生まれ。結婚後、妻の実家日吉屋で和傘製造業を始め、現在は五代目当主。株式会社日吉屋は五条の本覚寺門前で傘屋を創業後、二代目の時代に西陣の宝鏡寺前に工房を移す。茶道家元裏表両千家御用達の野点傘をはじめ、番傘、蛇の目傘など和傘全般を扱っている。

日吉屋 〈URL〉http://www.wagasa.com　〈TEL〉075-441-6644

すきまにきょうと

アンナ　キョウト　ヤ　コンナ　キョウト。
ノゾイテミタ。

写真／牧野　匡洋

着だおれ京都から発信

「モリカゲシャツ　その2」

オーダーも請け負うシャツ専門店モリカゲシャツは、「寿司屋のような服屋」をものづくりの原点にする。2月に開催された、東京での展示販売会も盛況だったモリカゲシャツ。今後はどこへ向かうのか。

春物は、シンプルさを徹底させた。切替えに工夫を凝らし、柄同士を織り交ぜるデザインが特徴になっている。

モリカゲシャツが目ざすオシャレとは？

着たら洗うのが服。そのように服を道具として考えた場合、ベーシックなラインは絶対に崩したくないんです。その上で、お客さまには嬉しい気持ちを大事にしてもらいたいです。他人に「そのシャツカッコイイね」と言われると嬉しいでしょ？人とちょっと違ったものを選んで、人とコミュニケーションをとっていく。流行を追いかけるのではなく、お客さまのオシャレに対する基本的なコンセプトをつくっていきたいと思っています。

今後のモリカゲシャツは？

他メーカーとのコラボレーションで新しい商品を生み出していくことは考えています。でも、それは拡張や合理化ではなく、お客さまとマンツーマンで向かい合うという、モリカゲシャツの仕事スタイルは崩さずに、コラボレーションによって新たな分野にもチャレンジすることを考えています。別のカテゴリーを展開していくということです。濃度を薄めたくないんです。

＜聞き手・構成／藤岡 篤弘　写真／牧野 匡洋＞

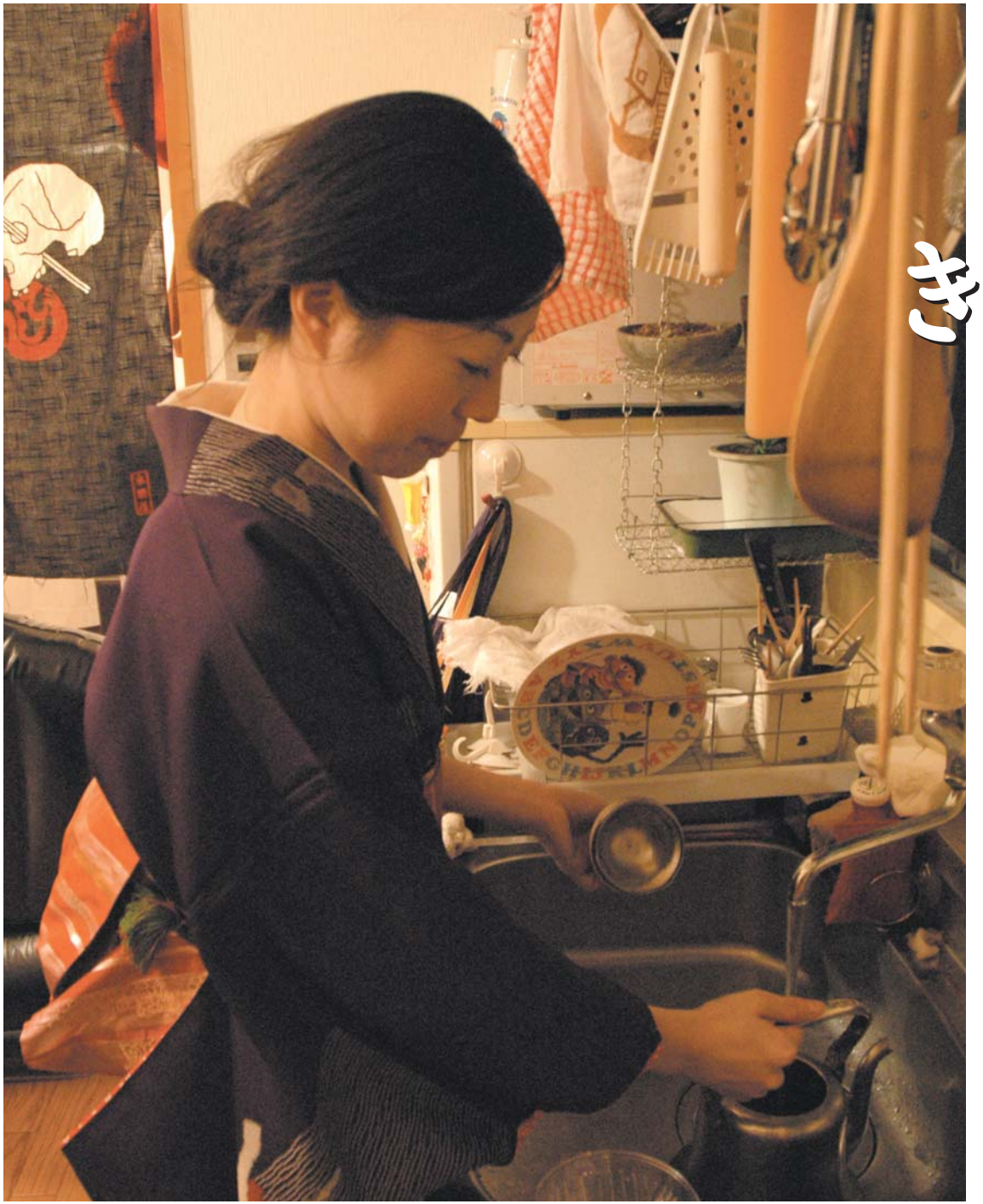
●**森蔭 大介**〈MORIKAGE DAISUKE〉／モリカゲシャツ代表

1970年京都市生まれ。文化服装学院二部服装科卒業後、1993年にオーダーメイドのアトリエショップをオープン。1997年には"MORIKAGE SHIRT KYOTO"をスタートさせ、翌年直営店をオープン。京都造形芸術大学専任講師。IFIビジネススクール（東京）非常勤講師。〈URL〉http://www.mrkgs.com/ 〈TEL〉075-241-7746

第1回

きもの燦々

さん　さん



鈴木　沙恵子さん

フォトグラファーで着物好きな鈴木さん、今回の撮影にあたり、京都・東寺の”弘法さん”で見つけた特別な1着を選んでくださいました。今年2月にご結婚され、今は金沢で主婦業奮闘中です。

信楽（しがらき）に魅せられて―

松川　実
（MINORU　MATSUKAWA）

みのる窯主宰
滋賀県甲賀郡信楽町長野676-1
TEL（0748）82-2548
URL http://www.ex.biwa.ne.jp
/~minorugama/

昭和２４年　奈良県天理市に生れる
・近畿大学附属高等学校卒業
・信楽、山文製陶所入社
・神崎継春氏に師事
・日本工芸会近畿支部展入選
・昭和５７年（日本工芸会賞受賞）
・昭和５８年（日本工芸会正会員）
　日本伝統工芸展入選
・平成４年　松下幸之助記念賞受賞
　日本陶芸展入選
・第五回秀明文化基金賞受賞
・滋賀の工芸・伝統のやきもの展出品
　（滋賀県立近代美術館）

滋賀県甲賀郡の山合いにある焼き物で有名な町「信楽」は、日本の六古窯（信楽・瀬戸・常滑・越前・丹波・備前）の一つに数えられている。

信楽の町の中心部から少し外れた場所に、松川実さんご夫婦が営む「みのる窯」がある。信楽に住み始めて「２５年になる」という松川さんに、その仕事場を見せていただいた。お椀やお皿などが木製の棚に所狭しと並べられている。仕事場の一角には、土を成型するために使う轆轤（ろくろ）がデンと我がもの顔に居座っている。

松川さんは、奥からビニールに包まれた四角い土塊を仕事場に抱えて来た。５種類の土が混ぜ込まれたものである（蛙目粘土（がいろめねんど））。その土塊を練り台に打ちつけると、次第に丸みを帯びた土塊へと姿を変えていく。土塊を内側に向かって練りこむ作業は「菊練り」というそうだ。松川さんの手のひらの下では、形を変えながら菊の花が浮かび上がる。

土練り３年といわれ、肩から手の甲までが一体の道具となって練り上げられていく。小柄な松川さんの体がとてつもないほど大きく見えた。そんな感覚に陥るほどの迫力があった。（次号へ続く）

楢灰窯変花器
（ならばいようへんかき）
435×135×355（mm）　¥315，000（税込・送料別）

楢灰窯変壷
（ならばいようへんつぼ）
310×310×270（mm）　¥252，000（税込・送料別）

灰釉窯変鉦鉢
（かいゆうようへんどらばち）
280×280×90（mm）　¥52，500（税込・送料別）

楢灰掛分皿
（ならばいかけわけざら）
255×255×30（mm）　5枚セット　¥105，000（税込・送料別）

ご注意●掲載商品は創作美術工芸品のため、現品限りのご提供となります。●印刷画像と現物では若干色合いが異なります。●返品はお受けできませんのでご了承ください。●お支払い方法その他詳細につきましては別途ご案内させていただきます。

●ご注文は：株式会社ハッピー　〒611-0041　京都府宇治市槇島町目川70番地の1　TEL：0120-88-6868　FAX：0120-88-3937
URL：www.kyoto-happy.co.jp/　Email：happy@kyoto-happy.co.jp
社団法人日本通信販売協会会員　JADMA

歌人・新井良子さんに聞く――

京都在住の歌人・新井良子さんに、京都でお気に入りのお店をこっそり教えてもらいます。今回は京都祇園の花観酒房さんです。店主の吉田澄男さんは、SSI認定の酒師。吟醸酒選びのアドバイスから趣味のお話まで、気さくに話してくださいます。

美味い を回遊

君にあわせ
少し背伸びの冷酒飲む
“おんなこども”の芋食べながら

＜写真／牧野 匡洋＞

「花観酒房」のドアを開けると、店主の吉田さんの「や、いらっしゃいませ」が聞こえてきて、それを聞くたび、「よかった、今日も美味しいのが飲める」と知り、本当にホッとします。

私はたいていカウンターで、吉田さんがすすめてくださる日本酒を飲みながら、海老まんじゅうや小芋のたいたんを食べます。

酒飲みの愛する「ごろいか」や「塩辛」などももちろんあるのですが、“女こども”が好きな料理もきっちりとそろっていて、お酒はすきだけど、やはりまだまだ“女こども“の口である私には、とても嬉しい。

マスターの吉田澄男さんからお客さまへ

当店は約50銘柄、いろいろなタイプの吟醸酒を取り揃えております。日本酒に苦手意識を持たれている方も、当店の吟醸酒はきっと気に入っていただけると思います。また、しっかり味の効いたお料理も美味しい吟醸酒にぴったりです。ともにお楽しみ下さい。祇園といっても居酒屋ですので、是非お気軽にご来店下さい。お待ちしております。

◆春のおすすめメニュー

海老まんじゅうの旨煮…1,050円
小芋の炊いたん…735円
竹の子の焼いたん…1,365円
お湯葉さんと生麸の炊いたん…945円
おばんざいの取り合わせ…945円
加茂福（島根 大吟醸 おりがらみ）…1,260円
十四代（山形 純米吟醸）…1,365円

PROFILE

新井 良子 〈ARAI RYOKO〉／歌人

1976年1月京都生まれ。京都で働きながら短歌を作っています。京都でしか生活したことがないことがプライドかつコンプレックスでもあります。新井良子短歌HP「盲目」をどうぞご覧ください。〈URL〉http://www.geocities.jp/moumoku_ar/

花観酒房 〈HANAMISYUBOU〉

京都市東山区祇園花見小路通富永町 東入ル南側 アミカビルII－3F
TEL 075-533-2811

＜文／赤津 陽子　写真／松本 春花・千脇 知子＞

萬福寺
〈Manpukuji〉

木魚といえば、大きな木製の鈴を横に寝かせた、そんな風体の仏具である。一六六一年に、禅師によって開創された黄檗山萬福寺には、木魚の原形になったといわれる、1メートルを超える木製の魚の彫り物がお堂に吊り下げられている。「開梆（又は魚梆）」とよばれ、太い棒で突いて音を鳴らし、刻限を報じるために使われている。

　萬福寺の開梆には、こんな昔話がある。むかし、心がけの良くないため運悪く魚に生まれ変わった修行僧がいたそうだ。魚になった事を自分の師匠のせいにし、毎日恨んでいるうちに、背中からは木が生え始め、次第に太くて大きな木になった。悔しくてたまらない修行僧は、師匠に恨みつらみを吐きながら暴れまわる。背中の木が大きく揺れて激痛が走り、苦しくてのたうちまわっているうちに、修行僧は「この痛みは、今までの自分の行いをさとしてくれているのだ」と気づいたそうだ。修行僧は師匠に背中に生えた木で魚をつくって欲しいと頼んだ。木彫りの魚の腹をたたいてもらい、これまでの罪を償おうと考えたのだという。

　現在の開梆は3代目だそうだ。代が変わっても相変わらずたたかれているお腹は、年月と共に削りとられ凹んでいる。午前十一時半。万福寺の和尚さんが、お勤めのために今日も開梆をたたく。ごおんと深く響く開梆の音に耳をすませる。痛々しいお腹の傷を見ながら、修行僧の償いはもう終わったのだろうか、と思いを馳せる。　参考／宇治民話の会 一九九九「宇治・山城の民話Ⅱ」文理閣

Happy ケア・メンテ

皆さんにお得なお知らせです！

NICOSカード/VISA加盟店でもお使いいただける、
ハッピーカードができました！

ご利用代金をカードでお支払いいただくと
今ならポイント2倍！！

7つの特典

1. ポイントはWで加算
2. お申し込みいただくと ハッピー10ポイント進呈
3. カードでケア・メンテをご利用いただくと2ポイント進呈
4. 特別ご優待セール（春・秋）
5. ハッピーセールのご案内
6. ネットクロークご優待
7. 季刊誌（無料）プレゼント

入会・年会費無料！

お申し込み
HP
www.kyoto-happy.co.jp
tel
0120-88-6868

ケータイ・ホームページからお申し込みください

●ハッピーカードのお申し込みは同封の案内書にてお申し込みください。
●ケータイからのお申し込みはカメラ付きのQRコード対応機種のみご利用いただけます。

●詳しくは、HAPPY CULB OFFICIAL MEMBER'S入会申込書をご覧ください。